記者発表資料

平成２７年　３月３０日
東北地方整備局
岩手河川国道事務所

国道４号平泉バイパス全線開通後の整備効果

世界遺産である平泉の観光円滑化・魅力向上に寄与

国道4号平泉バイパス(延長 5.8 ㎞)は平成20年8月5日に全線開通しました。
今回、開通後の整備効果についてとりまとめましたのでお知らせします。

世界遺産登録による観光客増加にも対応し、観光の円滑化・魅力向上に寄与

◆バイパスへの交通分散により、観光ツアーの定時性が確保され旅行会社に好評

◆全線開通を機に循環バス運行や自転車での観光に誘導するなどの渋滞対策を実施し、観光シーズンの慢性的な大渋滞が半減

◆バイパス整備と併せて現道の景観整備を行い、魅力ある観光地の形成に寄与

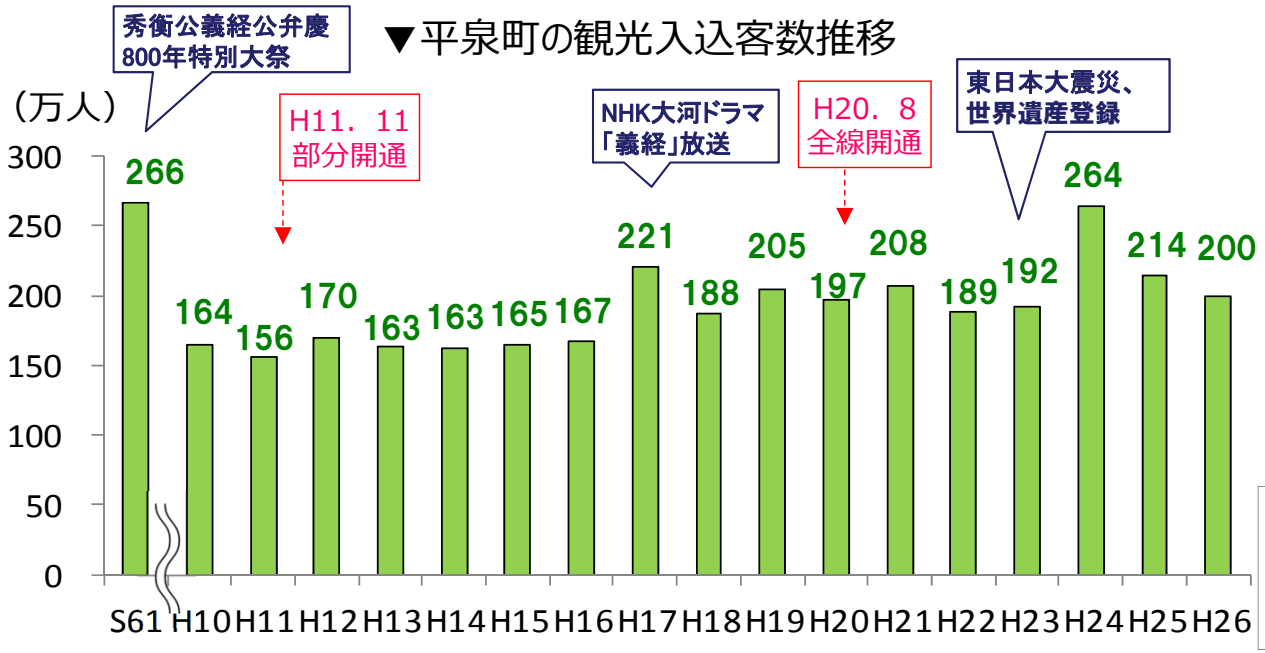
＜発表記者会:岩手県政記者クラブ、東北専門記者会＞

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　岩手河川国道事務所
〒020-0066　盛岡市上田４丁目２－２
副所長(道路)　亀井（かめい）　督悦（まさよし）（内線205）
電話019－624－3131（代表）
調査第二課長　佐々木（ささき）　耕嗣（こうじ）（内線451）
電話019－624－3196（調査第二課直通）

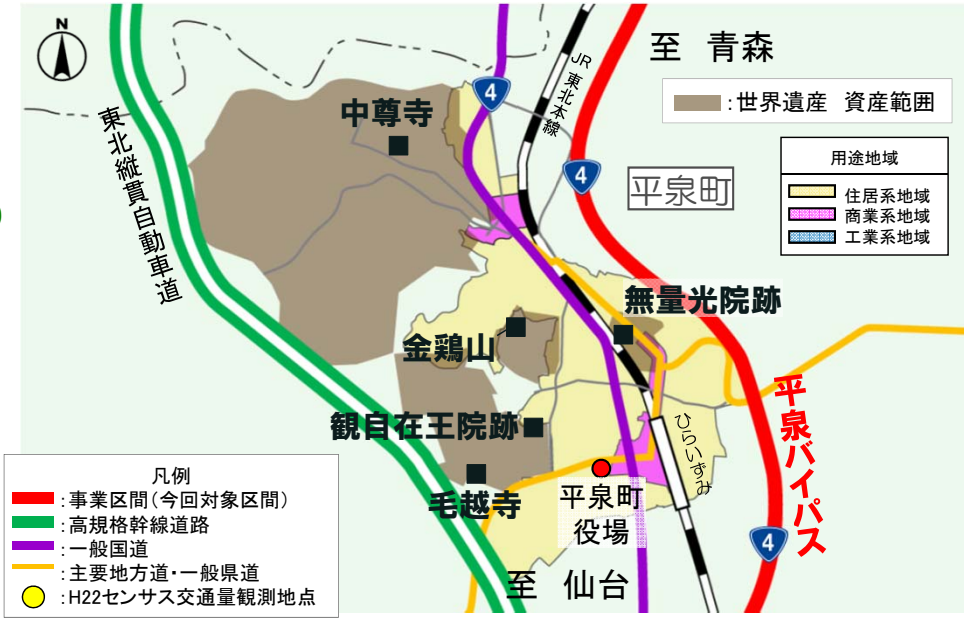
事業効果の発現状況①【世界遺産・平泉の観光の円滑化を支援】

◆平泉が世界遺産登録された事に伴い、過去2番目の観光入込客数を記録
◆平泉への利用交通量の過半数が自家用車及び借切バスを利用
◆平泉バイパスが全線開通したことで、町やツアー会社にとっても定時性が確保され、観光面で非常に効果があったとの声

▼平泉町の観光入込客数推移

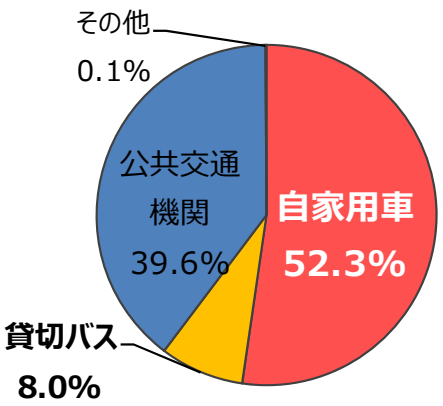


資料：平泉町観光入込客数(平泉町)



▼平泉への利用交通機関内訳

資料：平泉町（H21）





《平泉町・観光施設の声》

- 世界遺産登録後の半年間（H23.7～12）で、前年１年間（H22）の観光客の1.5倍が来訪しました。
- 個人の観光客も効果はあったが、旅行会社にとっても効果がありました。スムーズに、予定通りにツアーを運行できるようになったことは大きい効果だと思います。
- バイパスの開通は、観光面ではかなりの効果です。

資料：平泉町・観光施設ヒアリング調査結果（H25.11）

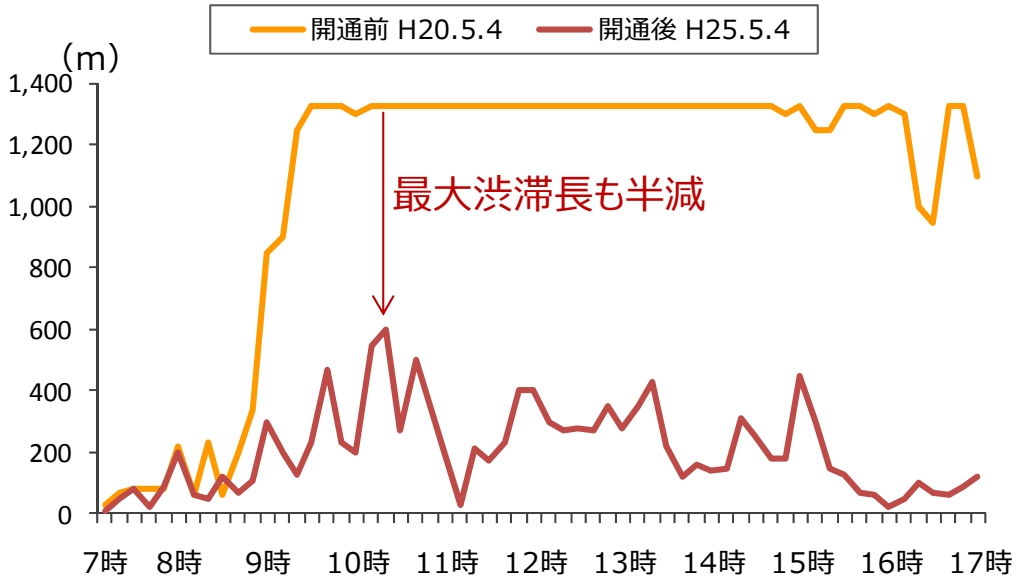
事業効果の発現状況②【観光シーズンの慢性的な渋滞の緩和】

◆平泉バイパス全線開通を機に「平泉観光渋滞対策検討協議会」による渋滞対策検討・実験を春・秋の連休期間中に実施
◆平泉バイパス近傍の臨時駐車場を利用し、町内へはバス・自転車等で誘導する施策を実施
◆GW等の観光シーズンには慢性的な渋滞が発生していたが、渋滞対策の結果、市内の交通混雑が緩和
◆現在は、社会実験の成果を得て平泉町が主体となり本格実施に移行

▼H21年5月　観光渋滞対策の概要



▼春の藤原まつり期間中の
国道４号　中尊寺前交差点における渋滞長の変化
（一関方面から中尊寺前交差点　方向）



資料：岩手河川国道事務所

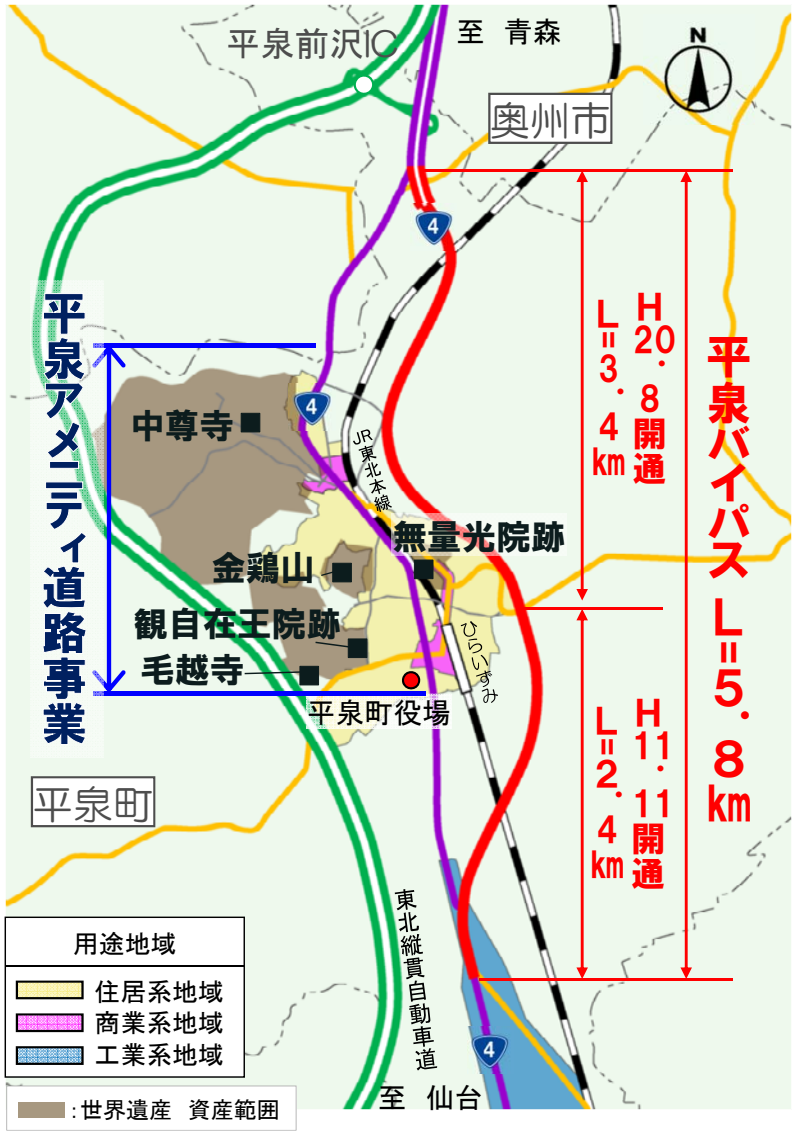
《平泉町・観光施設の声》

・H20以降、バイパスの開通に伴い渋滞は大幅に改善したと思います。
・もし平泉バイパスが無かったら、世界遺産登録後に観光客が集中し、渋滞や路上駐車などで劣悪な交通環境になっていたと思います。
・国道４号（現道）を一時通行止めにして行う東下り行列では、通行止め時の渋滞が縮小されました。

資料：平泉町・観光施設ヒアリング調査結果（H25.11）

事業効果の発現状況③ 【現道の景観整備により観光地の魅力を向上】

◆バイパス整備と併せて平泉市街地部の国道4号において積極的な景観形成を進める「平泉アメニティ道路事業」を実施
◆平泉バイパスの整備による渋滞緩和と市街地部の景観整備を同時に進めることで、魅力ある観光地の形成に寄与



平泉アメニティ道路事業

古都平泉が持つ歴史的背景にふさわしい景観を考慮した道路整備を行う事を目的に、学識経験者、岩手県、平泉町、国土交通省等が一体となり実施した事業。
国土交通省は国道４号の歩道整備（インターロッキングブロック舗装）、植樹、歩道の防護柵のデザイン化等を実施。


▲桜並木整備区間（国道4号市街地部）


▲歩道整備（歩道の幅を広く確保）

《沿道施設（飲食店）の声》

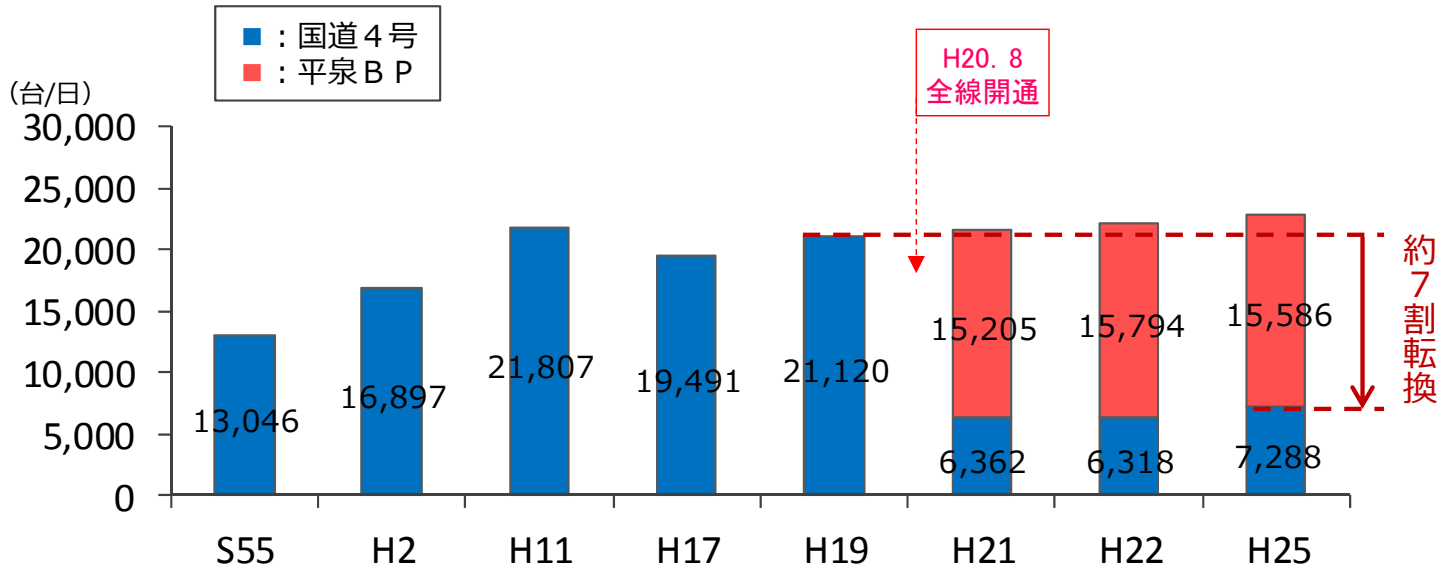
・バイパスの開通後は2次交通の利便性が良くなり歩行者・自転車が多くなったので、歩道を広めに整備していて良かったと思います。
・バイパスの開通前は、修学旅行生は国道４号をほとんど歩いておらず、裏の道をバス移動していました。今は毛越寺から中尊寺の間を歩くこともあり、安心して歩けるようになったと思います。
・国道4号はお年寄りでも歩きやすく、町内の方が朝夕の散歩をするようになりました。以前は大型車も多く、危険でなかなか国道４号の散歩はできませんでした。

資料：平泉町観光施設ヒアリング調査結果（H25.12）

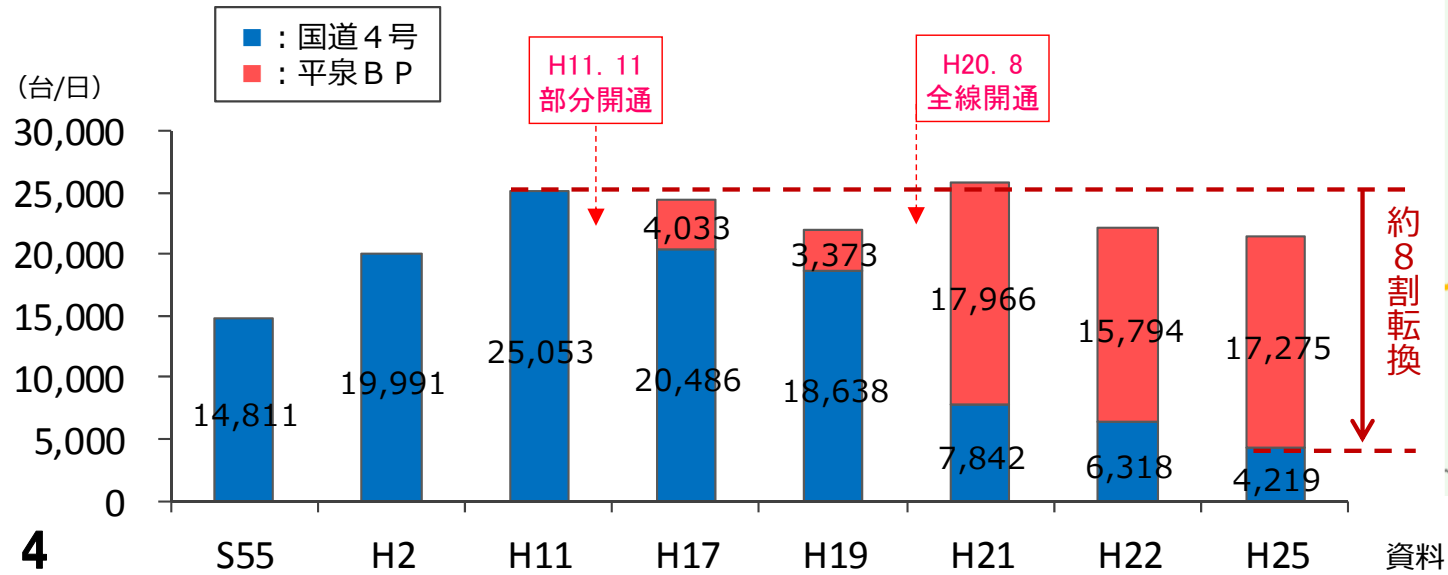
【参考①】 現道の交通負荷が軽減

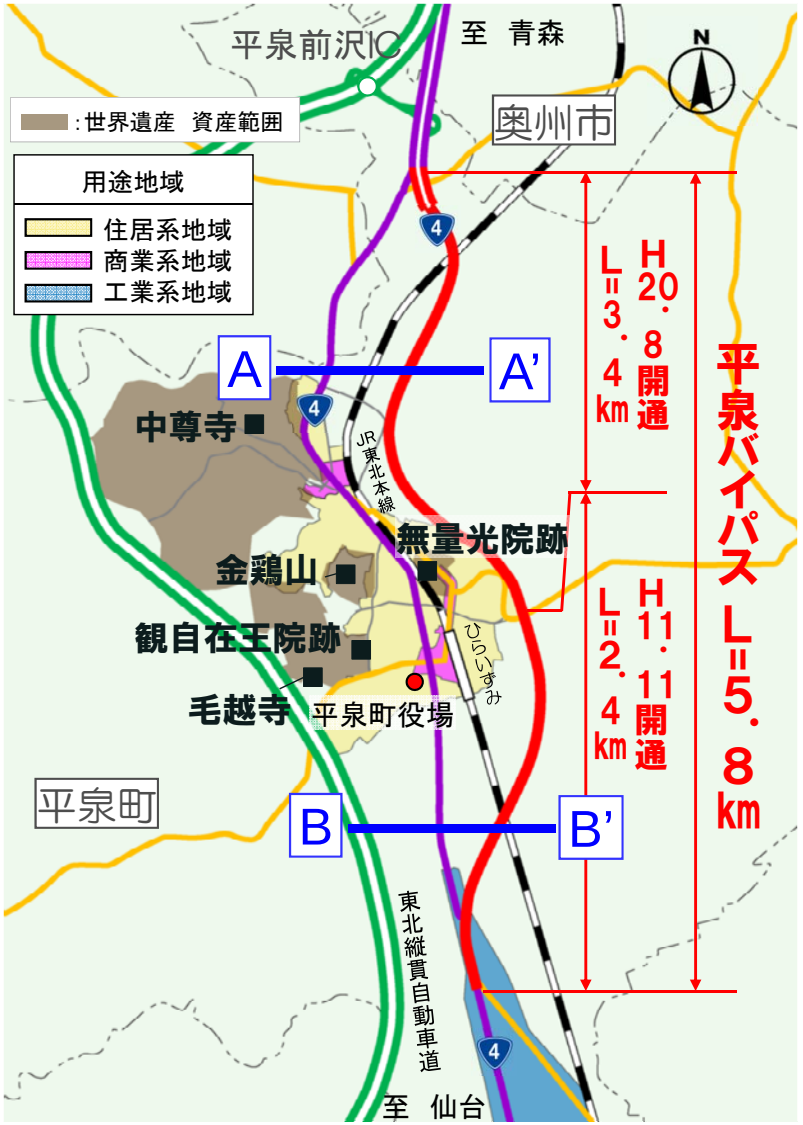
◆平泉バイパスの全線開通により、国道4号の交通量は約7～8割減少

▼交通量の推移（A-A’断面）



▼交通量の推移（B-B’断面）



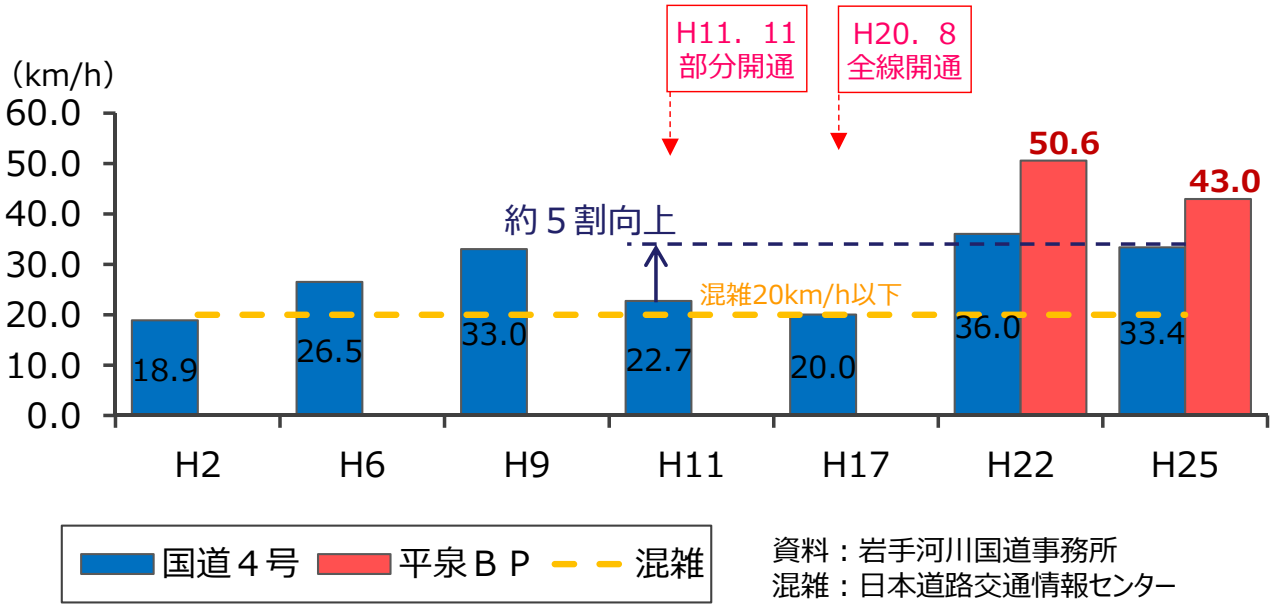


資料：岩手河川国道事務所

【参考②】 現道の速度向上・交通事故の減少・沿道環境の改善

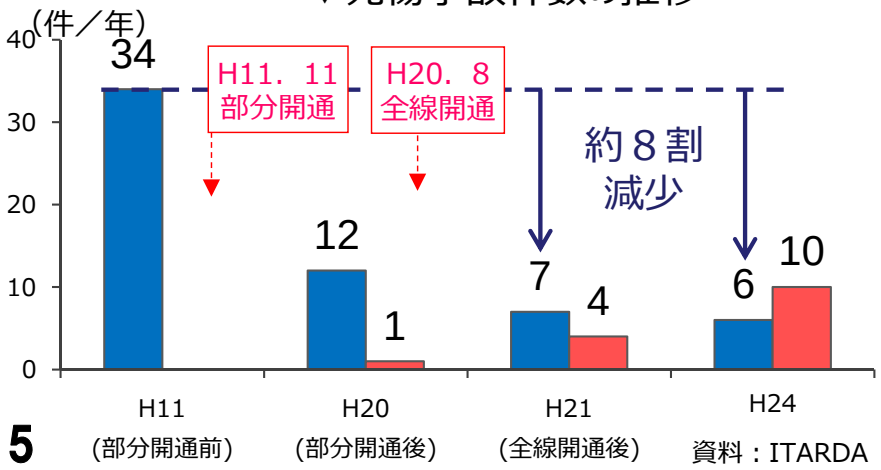
◆平泉バイパスの全線開通により、休日の旅行速度が約5割向上
◆平泉バイパスの全線開通により、国道4号における死傷事故件数が約8割減少
◆バイパス整備により道路交通騒音が低下し、夜間の環境基準値超過を解消

▼旅行速度の推移（休日）



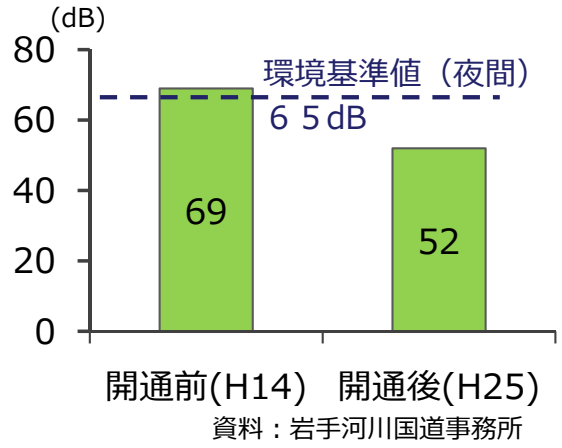
資料：岩手河川国道事務所
混雑：日本道路交通情報センター

▼死傷事故件数の推移

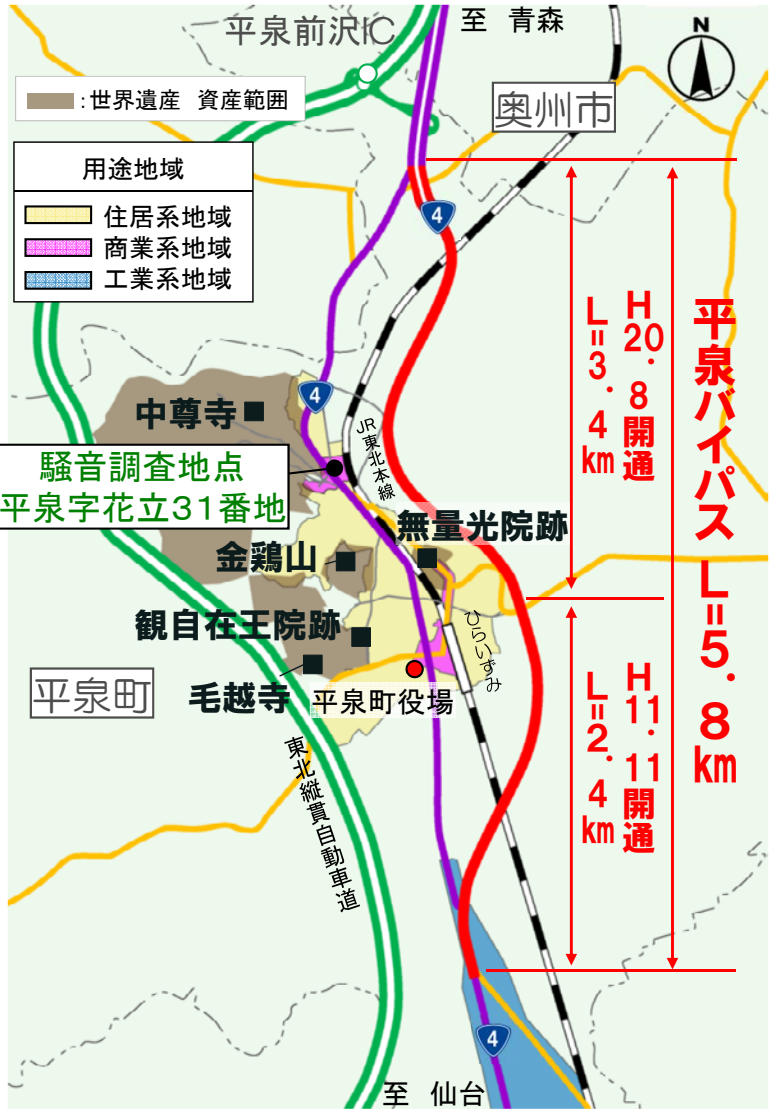


資料：ITARDA

▼道路交通騒音（夜間）の推移



資料：岩手河川国道事務所



【参考③】 事業の目的と概要

○事業目的

- 平泉町内の国道４号における交通混雑の緩和、交通安全の確保、沿道環境改善
- 市街地の交通円滑化による地域の観光振興、世界遺産登録に向けた景観配慮

○計画概要

起終点	：	自：岩手県西磐井郡平泉町平泉字高田（にしいわいぐんひらいずみちょうひらいずみあざたかだ）
		至：岩手県西磐井郡平泉町平泉字森下（にしいわいぐんひらいずみちょうひらいずみあざもりした）
延長	：	Ｌ＝５．８ｋｍ
幅員	：	Ｗ＝【暫定】１３．５ｍ
		【完成】２６．０ｍ
道路規格	：	第３種第１級
設計速度	：	Ｖ＝８０ｋｍ／ｈ
事業化	：	昭和５６年度
用地着手	：	昭和５７年度
工事着手	：	昭和５９年度
都市計画決定	：	平成　６年度
開通年度	：	平成２０年度（平成２０年８月）



